

平成28年度 第3回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び

協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名 平成28年度 第3回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日 時 平成28年12月19日 午前9時30分から午前11時30分まで
3	会 場 本庁舎 3階 共用会議室305
4	出席者 熊井委員、重野委員、栗田委員、福島委員、内川委員、大神委員、宗像委員、青柳委員、小河委員、飯沼委員、花岡委員、宮澤委員、遠藤委員
5	市側出席者 宮澤地域づくり課長、山田課長補佐兼まちづくり推進担当係長、金子まちづくり推進担当主査
6	公開・非公開の別 公開
7	傍聴人 0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日 平成28年12月20日

協 議 事 項 等

1	1 会議の概要 (1) 開会 (2) あいさつ (3) 報告事項 ①平成28年度先進地視察研修の概要について（資料1） ②個別協働事業の評価の実施について（資料2） ③安曇野市自治基本条例検討委員会報告書について（資料3） (4) 審議事項 ①協働の計画に基づく進捗状況について（資料4） (5) その他 (6) 閉会
2	2 会議事項概要 (1) 開会 【栗田副会長】 本日は13名の委員に出席いただいている。設置要綱第6条第2項の規定に基づき、過半数の出席をいただいております。委員会の成立をご報告させていただきます。 (2) あいさつ（内川会長） (3) 報告事項 ①平成28年度先進地視察研修の概要について ※事務局により説明。 【委員】 鯖江市では道路脇に草がなかった。草むしりやゴミ拾いの活動中のボランティアにお会いした。育成会でも、子どもたちが自主的に清掃活動に参加しているという話を聞き、感心した。 【委員】 自治会の加入率が90%以上とのこと。住民が自治会に対する関心が高く、そのような住民の意識が根底にあると感じた。そこに、体操の世界選手権等を契機に市民活動が活発になり継続されている。大きなきっかけや状況が、高いレベルのまちづくりになっていると感じた。

【委員】

鯖江市は市民が主体で、市民が動きながら、意見も言い、自分たちで作りに上げている。長野県では、話し合いが主になり、そこからどうやって動かしていくか、もっていき方の違いを感じた。また、契機となるのは危機感。一人でも多くの行動する人を増やしていくことが課題。

【委員】

一人ひとりの意識の高さを感じた。その根本は、ボランティア活動と感じた。市のボランティア活動にもう少し焦点を当てて、活動に対する意欲や自信を養う取り組みができると良いと感じた。

【委員】

日頃、歩きながらゴミ拾い等を実践している。取り組みを広げるために、周辺の企業等と協働で行いたいと考えている。私の団体の参加者も積極的に参加してほしいが、どう主体的に取り組んでもらえるか、難しさを感じている。鯖江市では、どのように団体をまとめているのか、もう少し聞きたかった。

【委員】

鯖江市では、やらされた感ではなく、主体的にやっている。ボランティアはあくまでも自主的な取り組み。鯖江市は、表の見えるところでは行政は何もしていないと言うが、裏でコーディネートの支援を非常に上手にやっていると感じる。活動の最後には振り返りが大切。気づいたことや感じたことを振り返る中で、同じことを考えている方が出てくるかもしれない。先に言ってしまうとやらされ感が出てきてしまう。少数でも気づいた人の集まりから始めてみることで輪が広がる。ボランティアを前面に出すのではなく、生活の中で必要なことをやってみる。結果、それがボランティアであったというのが本来の姿。協働コーディネーターの役割は、現場で持っているニーズをうまくつなぎ合わせ、組み立てていくこと。これがスムーズにいくと、それぞれの課題が解決に向かう。

【委員】

その役割は区長であると考えている。しかし、1～2年で交代する区長では難しい。

【委員】

自治会では難しい。むしろ、色々なところから湧き上がってくるようにしていかないといけない。

②個別協働事業の評価の実施について

※事務局により説明。

③安曇野市自治基本条例検討委員会報告書について

※事務局により説明。

(4) 審議事項

①協働の計画に基づく進捗状況について

※事務局により説明。

【委員】

教育機関との連携について、どのように連携が進んでいるか伺いたい。

【事務局】

教育機関との連携は、仕組みとしてはまだ構築されていない。現在は、協働事業として教育委員会で行っている事業の進捗状況の確認や評価の実施等を行っている。計画の中で進められないのが、教育部門また、企業。特に企業は協働の理解をどう得ていくか、良いご提案があればお願いしたい。

【委員】

教育委員会より委嘱を受けて、教育現場と地域をつなぐ、地域コーディネーターを担っている。ニーズの多様化、情報化等により学校では対応が難しい様々な課題があり、地域教育協議会にて検討を進めている。協働コーディネーターにも、参画していただくのはどうか。現場に入ると様々なことがよく見えてくる。

【委員】

地域コーディネーターとして、実際にどのような活動を行ったのか教えていただきたい。

【委員】

学校の教育の中では得られない、身近な地域を知るための活動をしている。様々な団体のネットワークにより、市民がもっている知識や能力を活かして、自然観察等の講座を開き、学校での課外活動に活用してもらっている。

【委員】

不用食器リサイクルに参加させていただいた。市民ボランティアは増えているが、企業との協働のハードルが高い。行政と連携することで、企業を巻き込んだ事業に展開していけるのではと感じた。

【委員】

まちづくりは人づくりである。どのように主体的にまちづくりをするかに、コーディネーターの役割がある。この役割と動きがしっかりしてくると、課題が解決に向かっていく。市民記者について、手段は記者として取材に行くが、そこで、関係づくりと地域の課題を発掘してこないといけない。その課題を話し合える信頼関係を持ち、ニーズが出てきたところでどのように進めていくかが一番大切。記事を作ることに徹することではなく、コーディネーターはあくまでも相談事業からコーディネートしていくという認識を持てるようなフォローアップが必要。企業との連携について、市民のちょっとしたニーズを拾って、協働コーディネーターがお互いに良かったと思えるプラスのつなぎ方ができると良い。商工会との連携について、現在ソーシャルビジネスの手法が必要と言われているが、その場合、商工会との連携があるとスムーズにいくと言われている。その辺の工夫をされてはどうか。また、これまでの実践の中で、期間を決めてしまうと形をつくることで終わってしまいやすい。伊勢市は10年かけてまちづくり協議会をつくった。じっくりかけた方が、その後の動きがスムーズ。認定地域リーダーについて、「認定」の難しさがある。座学では資質は育たない。認定されたら、フォローアップが必要。

【事務局】

計画では、認定となっているが、修了書をお渡ししている。実践しながら学習をしていくことをお願いしている。

【委員】

部制度について、30年に設置となっているが、市民の理解が必要。非常に時間がかかる。制度としては良いが、進捗について回覧板等で周知し、意見をもらうなど、プロセスの中で、市民に納得させながら進めていかないと、浸透していかないと感じる。また、くるりん通信について、ホームページでの掲載が無い号がある。後に続けていただきたい。貸館機能が無くなったから市民活動サポートセンターの活用が悪いと聞いたが、その辺どうか。

【委員】

以前、活動センターに関わっていたが、現在は、用が無いと行かない場所となっていると感じる。また、交流が減っていると感じるので工夫が必要。

【事務局】

以前は「わの会」に管理運営を委託していた。パートナーシップ協定により、市民活動の支援を目的とし、穂高支所の一角を貸し出すことになった。当初は3年間で指定管理に移行していく計画だったが、そのように進まなかった。現在は過渡期。当時、「わの会」と共にどうしていくか検討し、現在の形になったが、これが全てではなく、コーディネーターとも話し合い、研究をしながら、今後の市民活動サポートセンターについて考えていきたい。様々なご提言があればお願いしたい。

【委員】

過去に総代を担ったときに難しさを感じたのは、規定に沿って事業が継続しないこと。気になることは取り組むが、それ以外については取り組む意識が低い。

【委員】

専門部会に参加する区長について、現在83区の内、50名とのこと。83人の区長が全て参加するのが良いと思う。また、区長会で決まったことも、各区で市民への報告が無く浸透していかない。鯖江市では、区長会事務局を区長会で担っていたが、本市でも、行政任せではなく、将来に向けて区長会が独立した形なれるように進んでいくことが大切と感じている。

【委員】

区は任意組織であるため、区民に組織だった形で、きちっと情報を流していく、ということについて、任期当初は何もわからない区長のもと、本当にきちっとした体制でできるか、という難しい。どうしても区で温度差があるのはやむ負えない。皆様からご意見をいただきながら区長会でも考えていかなければならないが、仕方ないところであると感じている。

【委員】

区の在りようは、83通りある。せっかく作った規定が継続されていかないこともあるが、区によっては、規定に従って事業計画をつくり、管理していくというところもある。83区を一つの形に収めることは難しい。各区が中心であり、各区で課題解決に取り組む。その次として、地域区長会、市区長会、そして今後仮称ではあるが、まちづくり推進会議という仕組みがある。また、これからの時代の変化を考え、役員だけでなく、区民総参加の仕組みとして部制度の検討をしている。また、これを形にするために、補てん資料、情報提供としてコミュニティ・マニュアルを作成している。道半ばではあるが、精一杯、区長が取り組んでいる。区民への浸透について、各区長の判断次第である。任期が1年のところもあり、何もわからないまま過ぎてしまう区もある。その中では、ある程度、市区長会で決めたことを進めてもらうという形をとらざるを得ないところもある。部制度の設置について、一つの方向を向いて進んでおり、30年4月の設置を目安にしているが、間に合わないところもある。時間が必要。精一杯汗をかいているので、理解をいただきたい。1年では設立ができない、というご意見に対しては、市区長会正副会長会、理事会で検討したい。

【委員】

区の規定がある。規定どおり事業を行ったらどうかと本区で提案しているが、やっていることは全く違う。各区で違うので83通りで良いが、少なくとも、今やっていることに規定を変えたらどうかと思う。以前からある規定通りにやるか、それとも規定を現状に一度直すか、いずれにしても規定通りにやれば楽だと感じる。それが中々難しい。

【委員】

本区では、役員の任期は2年。変更の都度、規定等、必要なものを渡し、勉強会等を開催し、理解を深めたい。役職を担っていただいている。もしそのような状況があれば、区長会で徹底したい。しかし、出来ているところと出来ていない区はやはりある。これも83通り。

【委員】

本区では役員が一度に代わってしまう。代わった役員は規定も何もわからないまま多忙になるため、規定通りに実行できない。実態に合わせて、規定を直したらどうかと区長へ話をした。

【委員】

部制度の導入により、ご意見をいただいたような課題はかなり改善されると考える。区の在り方について見直す機会がこの部制度と考えている。そのため、区長会の将来に向けて83区で進めていきたい。

【委員】

過去に区長会の理事を経験した。区の規約も時代に合わせて見直すことが必要。また、市区長会理事会については、OBとして気になるところである。傍聴ができないか。区長会が抱える課題等について、区長会OBがコーディネートできるような仕組みを提案したい。

(5) その他

【委員】

先日開催したフードドライブで、市職員より缶詰だけで400以上の寄付があった。また、当日寄付していただく方もいた。沢山の職員の協力をいただいた。市職員の意識は決して低くない。

【内川会長】

以上をもって本日の会議を終了します。

【栗田副会長】

本日も、慎重審議、ありがとうございました。これで会議を終了とします。お疲れ様でした。